

リスクマネジメントにおける4つの領域とハインリッヒの法則との関係

事故が起こる頻度

Aゾーン

よく起こるが、小さい事故

打ち身内出血、爪切り等の裂傷、与薬忘れ、ずり落ち、ひざまずき

軽微な事故 29件

Bゾーン

よく起こり、大きい事故(あってはならない事故)

誤飲、誤食 誤嚥など、その他スタッフのミスで起こる事故

心理的ダメージ

Cゾーン

あまり起こらないが、小さい事故

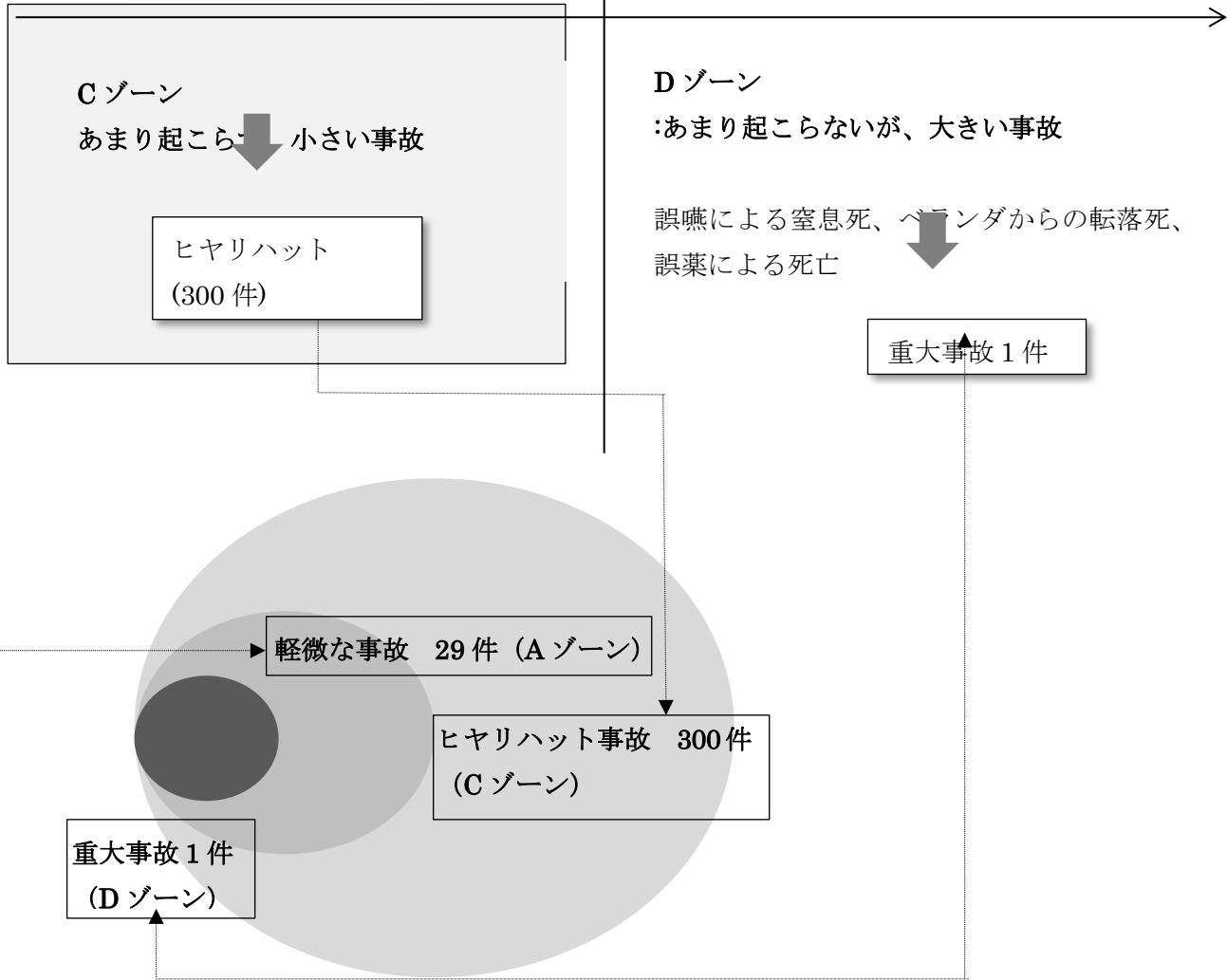
ヒヤリハット
(300件)

Dゾーン

:あまり起こらないが、大きい事故

誤嚥による窒息死、ベランダからの転落死、誤薬による死亡

重大事故 1件



重大事故 1件
(Dゾーン)

軽微な事故 29件 (Aゾーン)

ヒヤリハット事故 300件
(Cゾーン)

ヒヤリハット事故
300件 (Cゾーン)

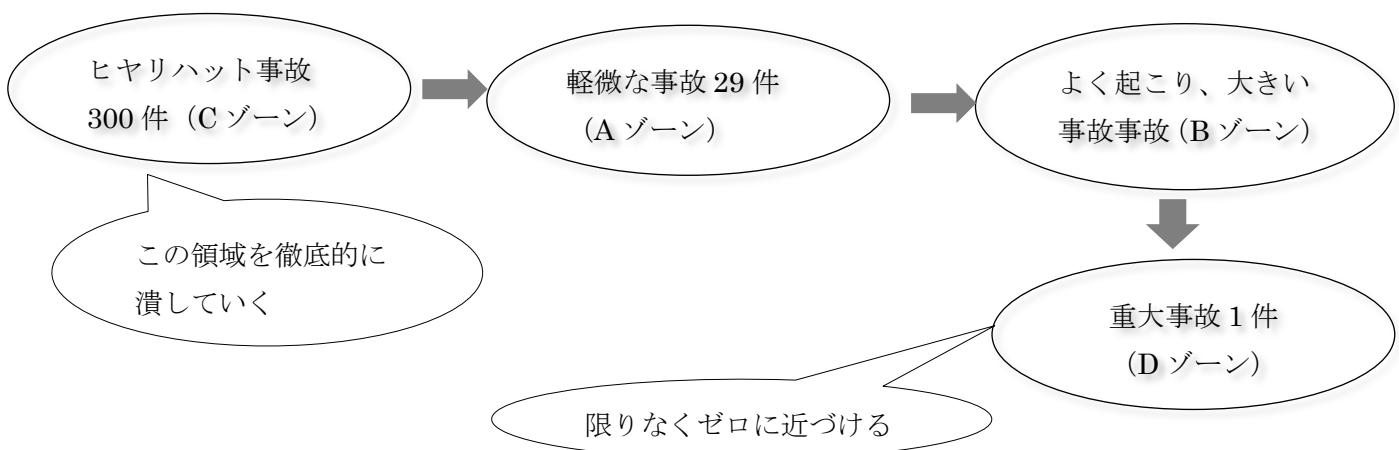
軽微な事故 29件
(Aゾーン)

よく起こり、大きい
事故事故 (Bゾーン)

この領域を徹底的に
潰していく

重大事故 1件
(Dゾーン)

限りなくゼロに近づける



解説

リスクマネジメントにはさまざまな種類があります。
ヒヤリハットから利用者の誤嚥等による死亡までレベルは様々です。

最悪の出来事はやはり利用者の死亡や入院、要介護度が上がる、QOLが下がるではないでしょうか。

私たち専門職は、以上のような重大事故に対しは絶対起こしてはならない！！というのが理想ですが、人間である以上それは土台無理な話です。しかし極力ゼロに近づけることは可能です。
では、そういった最悪の出来事を起こさないために何をすればよいのでしょうか。
それを示したのが上記の図になります。

ハインリッヒの法則というのは以下の定義があります。

1つの重大事故には29件の軽微な事故、その陰には300件のヒヤリハットが潜んでいる

一つ例を示しましょう

ある利用者のデイサービス送迎の場面にて

- ① スタッフが送迎の準備のため、利用者の身支度をしていたが、時間に追われてうっかり薬を持ち出すことを忘れた（ヒヤリハット事故300件（Cゾーン））
↓
- ② 朝食時に薬を持ち出すことを忘れたことに気づき、スタッフが慌てて予備の薬を出して事なきを得る。利用者は軽い誤嚥を起こしたが、予備の薬を飲んだことで誤嚥が収まる。（軽微な事故29件（Aゾーン））
↓
- ③ 別の日、同じくスタッフが身支度に追われ、また薬を持ち出すのを忘れてしまう
↓
- ④ たまたま事業所内に予備の薬がなく、誤嚥が収まらず、（死亡重大事故1件（Dゾーン））

この事例で、薬を持ち出すことを忘れていなければ、利用者の死亡という最悪の事態が防げたはずですが。

このように重大事故1件（Dゾーン）を極力ゼロにするためには、ヒヤリハット事故300件（Cゾーン）をなくしていくことが重要なのです。つまりヒヤリハットの段階で何かしらの対策を講じておく必要があるのです。